フィリピン留学だより⑨ マクタンの海へ

2018 年 3 月 11 日



英雄“ラプラプ”像前で記念写真

世界有数のサンゴの海を体験しました

マクタン島は、セブ市と巨大な橋でつながる、歴史と海の環境で有名です。16 世紀にマゼランの艦隊を侵略者と見抜いたラプラプ。火器・装備で劣るマクタン勢は、艦船の入れない干潟に敵軍を誘い込み、スペイン兵の鎧に覆われない足をやりで狙い撃ち。負傷したマゼランは顔を刺され絶命。指揮官の遺体を残しスペインは敗走します。

また、マクタン沖で地球温暖化によるサンゴの劣化とジンベイザメなど豊かな生態系の海の環境を、海に潜り観察しました。

車窓に見るセブ市のくらし

寮からバスで 40 分。車窓から様々な人びとの営みが見られました。ジープなどを改造した「ジプニー」は庶民の足。車体はイラストがカラフル（一種の現代アート？）。キティもありました。車道では、水・果物・新聞木工品を売る人。少年も多く、危険や暑さにさらされながらもあまり売れていないようです。



キティのジプニー



車道で物売りする少年

マクタンの海を体験

マクタンの海岸につき、海のスポーツをまず体験。2 班に分かれてバナナ・ボートに乗り 15 分間のスリルを味わいます。次は、水中眼鏡とフィンを付け船で沖にでて、海に潜りサンゴ礁を観察。世界有数の種類のサンゴが生息していることを確認。熱帯魚・ウツボ・大型カニなど海の生物がまぢかに確かめられました。沖縄・奄美の海を体験した生徒がポツリ。「白く死んだサンゴがここにはない」。観光と環境の共存を考えさせられました。



船でサンゴの生息する海へ出発

セブ伝統工芸品でチャリティを

ラプラプ公園では、貝・織物など地元の工芸品を販売しています。雁耕祭のチャリティ「セブ展」に、てバザーの企画を考え、10 人の目利きで購入しました。

ご期待ください。



地元の材料を生かしたみあげ店でバザー品購入



マゼラン碑